「新しい戒め」　　2025 年 11 月 26 日

愛する人たち、私があなたがたに書き送るのは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めです。その古い戒めとは、あなたがたがかつて聞いた言葉です。しかし、私は、あなたがたにこれを新しい戒めとしてもう一度書き送ります。それは、イエスにとっても、あなたがたにとっても真実です。闇が過ぎ去り、すでにまことの光が輝いているからです。光の中にいると言いながら、きょうだいを憎む者は、今なお闇の中にいます。きょうだいを愛する者は光の中にとどまり、その人にはつまずきがありません。しかし、きょうだいを憎む者は闇の中にいて、闇の中を歩み、自分がどこに行くのかを知りません。闇がその人の目を見えなくしたからです。（Ｉヨハネ 2：7～11）

著者は「私の子たちよ」と呼びかけていたが、今度は「愛する人たち」と呼びかけて、諭している。「ヨハネ教団」を指導する立場にある人が、教団内の若い人々に篤い思いで信仰を勧めようとして書いている。「私があなたがたに書き送るのは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めです。その古い戒めとは、あなたがたがかつて聞いた言葉です。」私が書いているのは新しい戒めはなく、あなたがたが既に聞いたことのある古い戒めである。「古い戒め」とは、レビ記 19 章 18 節の「隣人を自分のように愛しなさい。私は主である」という掟であろう。イスラエルの民は神に選ばれた民として、互いに愛し合うという戒めが基本であった。しかしこの戒めは、同胞への愛の勧めで、他民族に対しては「必ず滅ぼし尽くさねばならない」という民族主義的な言葉が背後にある。「しかし、私は、あなたがたに新しい戒めとしてもう一度書き送ります。それは、イエスにとっても、あなたがたにとっても真実です」と、イエスにとっても、あなたがたにとっても、主イエスにおける真実な新しい戒めを書き送ると付け加えている。ヨハネ福音書 15 章 12～14 節で、主イエスは、「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の戒めである。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。私の命じることを行うならば、あなたがたは私の友である」と語っている。主イエスが命を懸けて弟子たちを愛し貫かれたように、友を愛し合いなさいと教えている。ところが、マタイ福音書 5 章 43～44 節で、主イエスは、「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と言われている。しかし、私は言っておく。敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」と語っている。著者は、主イエスが自分を裏切る弟子たちを愛されたように、敵対する者をも愛しなさいという新しい戒めを告げられた。新しい戒めから、仲間だけでなく、敵対する者をも愛するという戒めを説いている。この戒めが与えられたから、「闇が過ぎ去り、すでにまことの光が輝いているからです」と、もはや闇ではなく、光が輝いていると言う。「きょうだいを愛する者は光の中にとどまり、その人にはつまずきがありません。」互いに愛し合うことが、光の中を歩むことで、そこにはつまずきがない。だから逆に、「光の中にいると言いながら、きょうだいを憎む者は、今もなお闇の中にいます。」「きょうだいを憎む者は闇の中にいて、闇の中を歩み、自分がどこに行くのかを知りません。闇がその人の目を見えなくしたからです」と言う。信仰は自明なことではない。光の中を歩んでいるつもりでも、自分の欲望を追求する闇の中に埋没してしまう。「愛するか」か「憎むか」によって、光と闇に分かたれる。「愛する人たちよ」、新しい戒めに従い、光の中を歩みなさいと、著者は勧めている。